

グラント「再生可能エネルギー2014国際会議」 開催趣意書

1.会議の名称

和文名: グラント「再生可能エネルギー2014 国際会議」(略称:Grand RE2014 国際会議)

英文名: **Grand Renewable Energy 2014 International Conference**

会議キャッチフレーズ: “*Advanced Technology Paths to Global Sustainability*”

2. 主催機関等の名称

(1)主催: グラント「再生可能エネルギー2014 国際会議」 組織委員会

<組織委員会>

委員長	山地憲治	東京大学名誉教授、総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会長
共同委員長	黒川浩助	東京工業大学特任教授、再生可能エネルギー協議会代表
共同委員長	鈴置保雄	名古屋大学 教授、大学院工学研究科
共同委員長	荒川忠一	東京大学 教授、大学院工学系研究科
委員長代行(兼)事務総長	神本正行	弘前大学 教授、北日本新エネルギー研究所長
副委員長	土屋宗彦	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事
副委員長	大和田野芳郎	独立行政法人産業技術総合研究所 企画本部企画副本部長
副委員長	伊藤隆一	一般財団法人 新エネルギー財団 業務執行理事

<運営・諮問委員会>

運営・諮問委員長	柏木孝夫	東京工業大学統合研究院 教授、同 AES センター長
国際諮問委員長	太田健一郎	横浜国立大学 特任教授
国内諮問委員長	坂 志朗	京都大学大学院 教授、エネルギー科学研究科

組織委員会のもとに実務を司る実行委員会が設置され、その中に作業別の委員会が設置される。

(2)共催:再生可能エネルギー協議会 (JCRE)

国際太陽エネルギー学会 (ISES) -

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

独立行政法人産業技術総合研究所 (AIST)

独立行政法人科学技術振興機構 (JST)

公益社団法人日本工学アカデミー (EAJ)

公益財団法人名古屋産業科学研究所 (NISRI)

一般財団法人新エネルギー財団 (NEF)

一般社団法人日本太陽エネルギー学会 (JSES)

一般社団法人日本風力エネルギー学会 (JWEA)

(3)協賛 <予定>

電気事業連合会

一般社団法人日本電機工業会

一般社団法人日本自動車工業会

石油連盟

一般社団法人日本ガス協会

一般社団法人日本鉄鋼連盟

社団法人日本建設業団体連合会

一般社団法人電子情報技術産業協会

一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会

一般社団法人日本水道工業団体連合会

一般社団法人日本機械学会

公益社団法人応用物理学会

一般社団法人電気学会

公益社団法人日本化学会

一般社団法人日本建築学会

公益社団法人空気調和・衛生工学会

公益財団法人地球環境産業技術研究機構

一般財団法人エネルギー総合工学研究所

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

一般財団法人電力中央研究所

一般財団法人省エネルギーセンター

一般社団法人新エネルギー導入促進協議会

一般社団法人太陽光発電協会

一般社団法人日本風力発電協会

一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター

一般社団法人日本熱供給事業協会

一般社団法人日本エネルギー学会

一般社団法人エネルギー・資源学会

一般社団法人日本気象協会

一般社団法人ソーラーシステム振興協会

一般社団法人住宅生産団体連合会

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会

公益社団法人電気化学会
公益社団法人化学工学会
水素供給・利用技術研究組合
一般社団法人水素エネルギー協会
一般社団法人燃料電池開発情報センター
燃料電池実用化推進協議会
一般財団法人エンジニアリング協会
独立行政法人国立環境研究所
独立行政法人海洋研究開発機構
独立行政法人宇宙航空研究開発機構
独立行政法人海上技術安全研究所
独立行政法人港湾空港技術研究所
独立行政法人国際農林水産業研究センター
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
独立行政法人森林総合研究所 (FFPRI)
独立行政法人物質・材料研究機構
独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構
一般社団法人海洋エネルギー・資源利用推進機構
公益社団法人日本船舶海洋工学会
日本海洋工学会
日本沿岸域学会
公益財団法人日本科学技術振興財団
公益社団法人日本地下水学会
一般社団法人日本半導体製造装置協会
一般財団法人日本自動車研究所

一般財団法人建築環境・省エネルギー機構
一般社団法人日本建築家協会
一般社団法人日本地熱学会
日本地熱開発企業協議会
日本地熱協会
特定非営利活動法人地中熱利用促進協会
一般社団法人ターボ機械協会
水力アカデミー
一般社団法人日本流体力学会
一般社団法人日本冷凍空調工業会
公益社団法人日本冷凍空調学会
日本ヒートアイランド学会
太陽光発電技術研究組合
有機系太陽電池技術研究組合
一般社団法人日本小形風力発電協会
一般社団法人日本風工学会
風力発電推進市町村全国協議会
一般社団法人アルコール協会
一般社団法人日本有機資源協会
国際農業工学会(CIGR) (*国際組織)
世界省エネルギー等推進協議会
サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)
日欧産業協力センター
リニューアブルエネルギー有効利用・普及促進機構

(4) 後援 <予定>

経済産業省	文部科学省	東京都
環境省	総務省	横浜市
国土交通省	外務省	
農林水産省	内閣府	

(5) 特別協力 : 独立行政法人日本万国博覧会記念機構(予定)
公益財団法人高橋産業経済研究財団
フジサンケイビジネスアイ(日本工業新聞社)

3. 開催期間

- 国際会議(NEDO, NEF, AIST 特別セッション、及び特別企画を含む)
2014年7月27日(日)ー8月1日(金)
受付開始:7月27日(日)、テクニカルツアー:8月2日(土)
- 併設国際展示会
2014年7月30日(水)ー8月1日(金)

4. 開催場所

東京ビッグサイト 国際会議棟 および 国際展示場

5. 開催の意義と目的

(1) 再生可能エネルギー2010 国際会議での確認事項の履行

2010年6月27日～7月2日、パシフコ横浜で開催したわが国2回目の再生可能エネルギー全分野を満了した再生可能エネルギー2010 国際会議(RE2010)で、クロージングの折、参加者全員で確認したこと『真の意味での持続的世界は、共生・循環型社会を保持していくことによるのみ達成される。そのためには再生可能エネルギーは不可欠であり、より長期的な一貫性のある政策と技術ベースのソリューションが急務である。再生可能エネルギー技術分野に関係するわれわれ専門家は、この重大な要請を受け、再生可能エネルギーが地球上のどこにおいても平和で環境にやさしいエネルギー資源であることを知っている。この事実がわれわれを開発と普及へ向かって奮い立たせる。ゆえに、本国際会議の参加者であるわれわれは、この再生可能エネルギー会議の次の機会において、近い将来にどこかで、互いに再会できることを熱望している』を実行に移すためわが国として3回目の再生可能エネルギー国際会議を開催する。

2006年、2010年と開催し、今回が我が国主導の3回目の国際会議になります。

(2) 社会的責任において再生可能エネルギーは従来にも増して重要になってきている。

経済発展と再生可能エネルギー利用技術は不可分な時代になってきました。国際会議を通じて持続的に取り組んでいるあらゆる再生可能エネルギー分野の研究や技術開発を発表し合い論議を通じて共有をはかり、産業化への加速を目指します。個別技術とシステムとしてのネットワーク技術が両輪であり、世界の人口増加に伴うエネルギー需要の増加をグリーンイノベーションによって減少させていくことが世界の安定に寄与することは明らかであり、ここに再生可能エネルギー利用技術をとおした新しい産業創生があります。革新性、独創性はキーワードですが、高効率、高稼働、信頼性、価格、汎用性も一方では重要であり、多くの階層の方々が幅広く参加できる国際会議にしたいと考えます。

(3) 国際会議を通じて東日本大震災からの教訓と復興プロジェクトを世界に発信する。

日本では不幸にして2011年3月11日、マグニチュード9の東日本大震災が発生しました。2万人近い尊い人命が一瞬のうちに奪い去られた津波による被害、福島第1原子力発電所の原子力事故に伴う甚大な放射能被害が発生しました。一日も早い復旧、復興を目指して国をあげて総力で取り組んでいるところでありますが、この過程で、新たなプロジェクトや施策において、従来になかった革新的な発想や構想も拓かれつつあります。再生可能エネルギーも必ずその中に含まれております。世界の研究者や有識者が集う国際会議でこの貴重な体験を通じて共有し合うことは、世界どこでも起こり得るであろう災禍への対応と研究に大いに役立つものと思われまます。

(4) グローバルな知識をもつ優秀な人材を育てたい。

できるだけ多くの若い技術者や研究者が国際的な場で発表する機会を提供し、かつ発表された論文が広く世界に拓かれ、それが契機となり更に研究開発が進むことが理想であります。当国際会議では複数の有力学会と組み可能な限り論文発表を支援していきたいと考えています。グリーンエネルギーや再生可能エネルギー利用に通じた次世代を担う優秀な人材の育成にお手伝いをいたします。

(5) 世界第一級の国際会議を実現する。

過去2回の同国際会議と同様に大規模な国際展示会を併設し、国際会議と国際展示会を車の両輪として国際会議に参加した方は自由に展示会に参加、また展示会の来場者も参加登録すれば国際会議に参加できるようにし、その輪を広め、まさに「再生可能エネルギー世界フェア」を実現させたいと考えます。

6. 本会議の特徴

プログラムすべてを貫くのは”Advanced Technology Paths to Global Sustainability”です。これに直近も見つめた“Look, Today and Tomorrow”を追加し、研究者や技術者、専門家など世界中から参加いただき幅広い会議になることを目指し、国際会議の意義と目的を達成します。そのために産官学すべてをカバーする多様なプログラムを組みます。

- (1) プレナリーセッションと招待講演
- (2) 分野別の研究・開発・技術の論文発表と有力学会との論文提携
12分野合わせて1,000件以上の論文発表を目指す。
- (3) METI, NEDO, AIST, JST などによる特別セッション、他省庁主宰の特別セッション
- (4) プロジェクト主体による特別セッションやワークショップ(復興プロジェクトの発信を含む)
- (5) 国際会議の共催組織、ISESのアジアパシフィック国際会議や海洋国際会議との連携プログラム
- (6) 開催都市、東京都との共同企画
- (7) ソーシャルプログラム: テクニカルツアー、バンケット、サンクスディナー、VIPレセプションなど

7. 開催計画の概要

(1) 会議の日程

7月27日 (日)	7月28日 (月)	7月29日 (火)	7月30日 (水)	7月31日 (木)	8月1日 (金)	8月2日 (土)
	特別セッション 招待者講演		開会式 基調講演	特別セッション 招待者講演		
参加登録	論文 オーラル発表 (12分野)					閉会式
		論文 ポスター発表		論文 ポスター発表		
	ISES アジアパシフィック会議 2014 第2回アジア潮流・波力国際会議					
	ワークショップ、フォーラム、イベント					テクニカル ツアー 1日コース
			ミニツアー	ミニツアー		
		サンクス ディナー	バンケット	VIP レセプション		
		第9回再生可能エネルギー世界展示会 (再生可能エネルギー協議会主催)				
		PVJapan 2014 展示会 & フォーラム (太陽光発電協会主催)				

(2) 主要題目

- | | |
|-----------|------------------|
| ① 政策・統合概念 | ⑦ 水素・燃料電池 |
| ② 太陽光発電 | ⑧ 海洋エネルギー |
| ③ 太陽熱利用 | ⑨ 地熱・地中熱 |
| ④ 環境建築 | ⑩ エネルギーグリッド・パワエレ |
| ⑤ 風力 | ⑪ 省エネ・ヒートポンプ |
| ⑥ バイオマス | ⑫ 中小水力・未利用エネルギー |

(3) 参加予定者 1400名(国内1000名、海外400名)

(4) 参加予定国 60ヶ国

(5) 会議使用語 英語

(6) 会議議事録

- ・論文アブストラクト集：会議登録者にはダウンロード可能にする。
- ・フル論文集：会議終了後にDVDに編集し発行、参加者全員に無料配布
- ・Grand RE2014 事業報告書：関係団体・法人、関係者全員に配布

(7) 参加登録費

プレナリー及び分野別セッションをカバーする国際会議の参加費用(バンケット代を含む)は以下を予定している。

	早期登録	一般登録
・一般参加者	55,000 円	65,000 円
・共催及び協賛団体	45,000 円	55,000 円
・学生	15,000 円	15,000 円

特別セッションの NEDO, AIST, JST などのセッション、諸官庁、自治体、並びに協賛団体が主催するシンポジウムやフォーラムは、別途取り決めを行なうこととする。

8. 国際会議開催までの主な行程

年	月	国際会議	国際会議についての注記	国際展示会・フォーラム	
2012	1月				
	2月				
	3月	RE2014 組織委員会骨格決定 会場、日取り決定			
	4月	JCRE総会(4.25,10:00 @東工大)		出展者募集開始	
	5月				
	6月				
	7月	開催趣意書作成(案)			
	8月	RE2014 組織委員会発足式(8.24, 10:00 @東京大)			
	9月	国内の組織委員固め	JCRE HPにRE2014掲載 ←RE2013についてもアナウンス	RE世界フェア2012出展者説明会	
	10月	海外の組織委員、諮問委員固め			
	11月	企業寄附申請手続き			
	12月			RE世界フェア2012 12.5(水)～12.7(金), 幕張メッセ	
2013	1月		2nd Call for Paper要素の作成、 資料準備完了。国際諮問委員、 協賛、協力団体など承諾どり。	出展者募集キャンペーン(RE2013)	
	2月	イベント会社入札/決定	プログラム、ツアー固めなど。	RE世界フェア2013本格準備開始	
	3月		招待講演者セッティング Call for Papers 原案作成	出展者募集作業	
	4月		JCRE総会	出展者募集作業	
	5月	Call for Papers 第1版 発行 Grand RE2014ホームページ開設			
	6月	論文受付開始 募金作業開始			
	7月	関連学協会に働きかけ強化		RE世界フェア2013 7.24(水)～7.26(金) 東京ビッグサイト	
	8月	Call for Papers 第2版 発行			
	9月	募金活動 精力的に活動		RE世界フェア2014出展者募集作業	
	10月				
	11月	Call for Paper 本格的追い込み			
	12月	論文アブスト締切り			
	2014	1月	論文アブスト募集キャンペーン強化 参加者募集キャンペーン強化		出展者募集キャンペーン
		2月	論文アブスト査読 分野・カテゴリ、オーラル・ポスター整理		
3月		英文ジャーナル セット 受諾通知			
4月		JCRE総会 Early Bird 締切り			
5月					
6月					
7月		Grand RE国際会議(RE2014) 7.27(日)～8.1(金) @東京ビッグサイト	←フル論文提出	RE世界フェア2014 (国際会議と同時開催)	
8月					
9月		報告書まとめ			
10月		フル論文集送付完了			

9. 組織図

